

林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林ふれあい推進センター
令和7年度 年報



はじめに

北海道の東部に位置する釧路地方は、釧路湿原と阿寒摩周の二つの国立公園やラムサール条約登録湿地に加えて、令和3年3月には厚岸霧多布昆布森国定公園が指定される等、雄大な自然環境に恵まれた地域です。

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、根釧西部森林管理署が管理経営する国有林の特徴を踏まえて、森林環境教育等に携わる教育関係者、ボランティア団体・地域住民、行政機関等の活動支援や技術指導を行っています。

今年度の主な活動内容がまとまりましたので、ご覧ください。

目次	頁
I 森林環境教育の取組	・・・ 1
1 虹別中学校 2 中茶安別小中学校	
II 地域との連携・普及啓発等の取組	・・・ 3
1 地域と連携した取組 2 普及啓発の取組 3 広報活動	
III 自然再生・生物多様性保全の取組	・・・ 7
1 雷別ドングリ倶楽部 2 一般公募植樹 3 釧路湿原自然再生協議会	
IV 活動区域及び所在地	

森林環境教育の取組

1 標茶町立虹別中学校 5月8日

環境学習の時間で「森林講話」を実施しました。

この取組は、令和4年度より実施しており、今年は、3年生9名に実施しました。

まず、身近な樹木について、説明し、その後、林業について、「伐って・使って・植えて・育てる」を循環する産業であること、今使っている木材は、昔の人々が育てたものであり、将来のために、森林を整備していくことが大切であるとお伝えしました。

最後に、「北の森カルタ」を実施し、先生も参加し熱いバトルをしていました。

終了後の生徒代表の挨拶で、「今まで聞いたことのない単語が沢山あり、勉強になりました。」とお礼の言葉をもらいました。



△「北の森カルタ」の様子

2 標茶町立中茶安別小中学校

「標茶町立中茶安別小中学校」は、標茶町の市街地から南東約11kmの中茶安別地区に所在し、児童・生徒数は約30名の小規模校で、小学校と中学校が併設されています。

学校林には、案内板・林道・遊歩道・ツリーハウス等が整備されており、同校が策定した「森林環境教育年間指導計画」により、様々な自然体験活動を実施しています。また、同校は開校間もない頃から現在まで、植樹活動に取り組むとともに、積極的に外部との交流も行っており、平成31年に「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました。

当センターは、平成18年度から学校林活動に携わっており、令和7年度は、春・夏・秋3回の体験学習及び木工クラフト（ミニツリーづくり）等の活動を企画・支援しました。



△植樹と保護管被覆の様子

(1) 春の学校林活動 5月19日

まず、標茶町森林組合職員により苗木の植え方の説明、当センター職員より植栽木を野生生物の食害から保護するための「保護管（ツリーシェルター）」被覆の説明を行い、その後、3班に分かれて「トドマツ」「カラマツ」50本ずつ合計100本の苗木を森林組合が印をつけた箇所に植樹をしました。

保護管の設置は枝が多く、シェルターの中に納めるのに苦労していましたが、協力しながら作業していました。



△作業完了後の様子

閉会式では児童生徒会長から、「私たちの植えたこの苗木が大きく成長し、10年、20年後には、この学校林の中心となるような大木に成長して、学校林がいつまでも受け継がれていって欲しいと思います。」とご挨拶がありました。

(2) 夏の学校林活動 8月27日

学校で「カラマツ・トドマツ」の講話をし、学校林へ移動し、グループに分かれての活動に移りました。

高学年グループが、カラマツの枝を高枝切りで採取、低学年グループがマツボックリを採取しました。

高学年グループは、初めての高枝切りノコと悪戦苦闘する中で切断できた時は歓声を上げていました。

低学年グループは、切断した枝からマツボックリを集めました。

生徒代表から、「枝を切ることが、学校林の木々の成長につながることを知り、私たちも、今回の活動を通して、そのことに関われたことは、とても素晴らしいことだと思いました。」との言葉を頂きました。

(3) 秋の学校林活動 10月27日

まず、全体にパワーポイントで循環する産業・林業という内容で講話を実施、その後、低学年グループは「コースター作成」、高学年グループは「巣箱作成・設置」を体験してもらいました。

低学年グループは、シラカバの枝をノコギリで薄く切りサンドペーパーでコースターに仕上げました。

高学年は、センターで準備した巣箱キットを4班に分かれて、慣れない釘打ちを協力しながら組み立て、完成した巣箱を校庭にある樹木に設置しました。

(4) ミニツリーづくり 12月2日

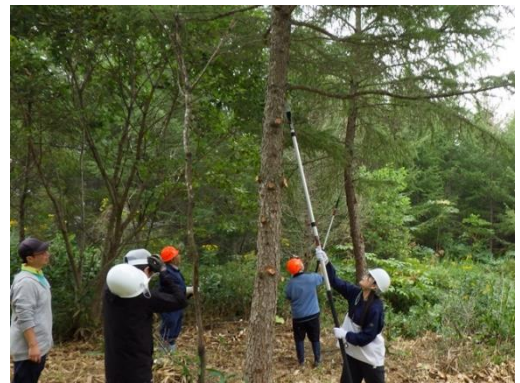
この活動は、小学生を対象に行われ、今年で5回目となり、標茶森林事務所職員3名も参加しました。

当日は、授業参観日になっており、保護者と児童と一緒に作成する様子もみられ、マツボックリやドングリ、木の枝等の森林の恵みを自在に組み合わせて、「ミニツリー」・「森林のいきもの」等、創造性あふれる作品を数多く制作し、会場は、笑顔あふれる和気あいあいとした雰囲気になっていました。

あわせて昨年、好評であった木製の

「オーナメント（ミニツリー）」・「フォトフレーム」づくりも取り入れる中で、次々とアイデアを生み出し、作品づくりに取り組んでいました。

保護者からは、「子どもたちの発想力ってすごいですね。」等の声がありました。この活動が、木や自然への興味を深めるきっかけになってくれれば、うれしく思います。



△高枝切鋸で作業



△丸太切りの様子



△巣箱設置の様子



△完成した作品

1 地域と連携した取組

(1) ふれあい木工クラフト 4月29日

令和7年4月29日～5月6日の8日間、あすなろ会こども遊学館で、GW イベント2025「木のおもちゃであそぼう！」が開催され、「木工具体験」や「モルック体験」などの様々な催しが行われました。

当センターは、マツボックリやドングリ、木の枝・輪切りといった森林の素材で「森林の恵みを使って工作しよう！」をテーマとして、ふれあい木工クラフトを実施しました。また、当センターで貸出した「つみつきーであそぼ」のコーナーとあわせて、「木の標本・タネの標本」の展示もしました。

当日は、朝から雨のため、室内でのイベントに、多くの親子連れが訪れ、木工クラフトに熱中している姿が見られ、森林の恵みを存分に使ったフォトフレームやタンチョウの作品等、完成したものと笑顔で写真を撮る姿が印象的でした。

遊学館のスタッフやボランティアの皆様にお手伝いいただき、GW 期間に、木工クラフトを楽しんでもらえました。

(2) 木育ワークショップ 7月19日

鶴居村ふるさと情報館において、わんぱくアドベンチャークラブ7月講座「木育ワークショップ」の依頼があり、活動支援を行いました。

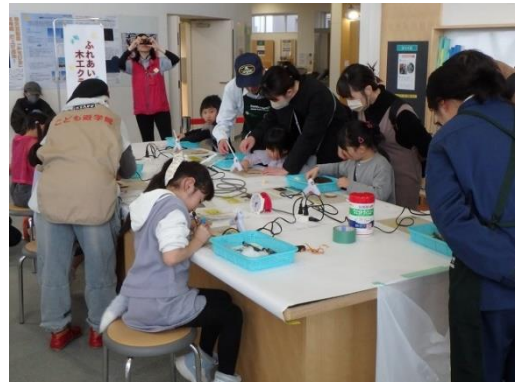
この取組は、令和5年度より鶴居村教育委員会からの依頼を受けて、活動支援を実施しています。

今年度は、最初に、森林・林業について、樹木のタネの運ばれ方について、パワーポイントで説明後、参加者18名を2班に分けて、交代で、風で運ばれるタネの模型作り、その後、木工クラフトで「フォトフレーム」を作成しました。

タネの模型は、ラワン・アルソミトラの2種類を作成し飛び方の違いに、みんな何回も飛ばし、歓声をあげながらタネの不思議に触れてもらいました。

「フォトフレーム」はキットにマツボックリやドングリなどをグルーガンで接着して、それぞれ個性的な作品を作成していました。

今回の活動を通じて参加した子供たちが森林の良き理解者になるよう願っています。



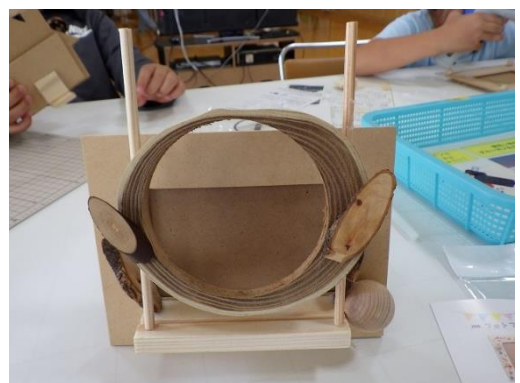
△「ふれあい木工クラフト」の様子



△完成した作品



△「タネの運ばれ方」説明の様子



△フォトフレーム作品

(3) 第33回カミングパラダイス 9月7日

令和7年9月6・7日、白糠町のハミングロードで、第33回カミングパラダイスが開催されました。

この催しは、白糠駅前南通り商店街を歩行者天国にして行われ、町内店舗を中心に露店等の出店、ちびっこ縁日等、大人も子どもも楽しめるイベントです。

当センターは、緑化推進委員会の木育の取組と連携し、7日に「木工クラフトづくり・フォトフレームづくり」を行いました。

当日は、天候が心配されましたが、ブースを訪れた方々は、楽しそうに木工クラフトに取り組んでいました。子どもたちは、好きな動物をマツボックリ等で作ったり、滑り台や飛行機を作ったりしていました。大人の方もフォトフレームの飾り付けを楽しんでいました。個性的な作品やかわいい飾り付け等、素敵な作品がたくさんありました。

秋の木育イベントとして、多くの方々が木工クラフトを楽しむ姿があり、雨が上がったお昼以降は特に盛り上がっていました。

このほか、「なつかしひろば」において、竹馬やコマ等の木にちなんだ遊びもあり、賑わっていました。

(4) 木育・森づくりフェア 11月15日

令和7年11月15・16日の2日間、イオンモール釧路昭和のサンコート広場で、「2025 木育・森づくりフェア」が開催されました。

この催しは、木育の取組を通して、地域の方々に協働の森林づくりへの関心を高めていただくため、「釧路町村会」と「くしろ森と緑の会」が呼びかけ人となり、関係団体が連携し、実施しています。

会場には、釧路根室管内の木育・植樹活動等の様子や地域材を活用した木製品の紹介コーナー、「木育広場」、「木工体験・木製遊具」コーナー等があり、賑わっていました。

当センターは15日に、根釧西部森林管理署とマツボックリやドングリ、木の枝等の森林の素材を使ったミニツリーづくりを行いました。

午前中は買い物に来られた高齢の方々がミニツリーづくりを楽しんでおられました。午後からは、ご家族で訪れる方が多くなり、親子で楽しんでおられる様子も印象的で、遠くから来られた方もいました。



△木工クラフトの様子



△フォトフレームの作品



△ミニツリーづくりの様子



△完成した作品

2 普及啓発の取組

(1) 長野県林業大学校学生見学 6月20日

長野県林業大学校の2年生20名が、厚岸町と標茶町に広がる「パイロットフォレスト」を見学しました。

これは同大学校の北海道の森林・林業を学ぶ研修の一環として、実施されたもので、根釧西部森林管理署と当センターが支援しました。

始めに、研修棟でパイロットフォレスト造成時の様子をまとめたDVDを視聴し、森林技術指導官から造成秘話の解説がありました。

次に、空中消火機材と林業機械の見学をしました。

その後、望楼へ移動し、4代目望楼からの眺望を楽しんでもらいました。約24mの高さから見下ろすカラマツ林や釧路港や別海方面が見渡せる開けた大地に感動している姿がありました。

全体を通して、多数の質問もあり、真竜森林事務所森林官から現在の施業状況などの現場からの解説もあり、森林・林業に関する話題が盛り上がりました。

(2) JICA 中央アジア国別研修 8月26日

雷別地区自然再生事業地で、JICAによる「地域振興に寄与するエコツーリズム等の持続可能な湿地資源の利用」研修が行われました。

当日は中央アジアから9名の研修員とJICA関係者が訪れ、当センターが事業説明等を行いました。

まず、所長から、雷別地区自然再生事業の背景や目的、事業方針などを説明しました。

次に、雷別地区の郷土樹種の特徴、植栽木を保護するためのツリーシェルターの効果や取外し時期、今後の方針等について説明しました。

「苗木はどのように植えているのですか。」「ツリーシェルターを被覆することで植栽木への悪い影響はありませんか。」等の質問がありました。「タジキスタンでは森林を増やす取組を行っているので、ツリーシェルターを導入したい。」といったお話もありました。

その後、事業地内を散策し、立枯れしたトドマツや植栽木を観察し、写真や動画に収めていました。



△研修棟での様子



△空中消火機材を見学する様子



△説明を聞く様子



△自然再生事業地を見学する様子

(3) 京都大学・北海道大学学生見学 9月16日

京都大学及び北海道大学の学生等29名が、厚岸町と標茶町に広がる「パイロットフォレスト」を見学しました。

京都大学の研究林では、「森里海連環学」として、上流の森林と厚岸湖・厚岸湾、これらをつなぐ別寒辺牛川を対象地として、森林植生、水生生物、水質などに関する実習を行っており、今回は、その実習の一環として見学に訪れました。

はじめに、研修棟でパイロットフォレスト造成の様子を記録したDVDを視聴してもらい、その後、機械標本展示庫で当時使用していた機械を見学しました。

その後、望楼からの眺望では、高さ約24mからのカラマツ林の景色を楽しんでいました。あまり見ることでできない高さからの眺望を新鮮に感じて、遠くに見える羅臼岳や国後島を探して盛り上がっていました。また、初代望楼の写真を見て、驚いている様子でした。

パネルを使った施業の説明では、本州の施業との違いとして、「なぜ、カラマツは枝打ちをしないのか。」といった質問もありました。本州で主流のスギやヒノキとの違いを説明しました。

今回の見学を通して、パイロットフォレストについて知ってもらい、本州との違いや森・川・里・海つながりについて考える機会にできていたら良いと考えています。



△望楼と記念撮影

3 広報活動

当センターは、イベントのご案内や活動状況等について、ホームページ (https://www.rin-ya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html) と広報誌「飛鶴の森林から」で情報発信しており、令和7年度はNo.176～No.182を発行しましたので、是非、ご覧下さい。

また、北海道森林管理局ではInstagramとFacebookを開発していますので併せて、ご覧下さい。



△北海道森林管理局 Instagram・Facebook



△広報誌「飛鶴の森林か

1 雷別ドングリ倶楽部

「雷別ドングリ倶楽部」は、高齢級のトドマツ人工林が立ったまま枯れてしまう気象害に遭い、笹地となった雷別国有林（標茶町雷別）をフィールドとして、平成19年7月から「広葉樹の森林づくり」（森林再生）等に取り組んでいるボランティアの方々の集まりです。今年度は会員22名で森林づくり活動等を4回行いました。

(1) 広葉樹の森林づくり【第1回活動】 6月25日

雷別自然再生事業地で、今年度1回目の「雷別ドングリ倶楽部」を開催しました。

当日は会員11名が参加し、経験者の方がほとんどだったこともあり、スムーズに作業に取り掛かることができ、準備したミズナラ・ヤチダモ・カツラ・キハダの120本の苗木を午前中に植え終わりました。

午後からは、保護管の組立てと植栽した広葉樹に被覆を行いました。予定していたすべては被覆できなかったのですが、無事に活動を終えることができました。参加者の方からは、「楽しくなってきたところだからもう少しやりたい。」等の声が寄せられました。

今回の活動は、保護管が熱くなるほどの気温でしたが、参加者同士で声を掛け合い、休憩を取りながら安全に、森林再生に取り組むことができました。

(2) 広葉樹の森林づくり【第2回活動】 9月24日

雷別自然再生事業地で、今年度2回目の「雷別ドングリ倶楽部」を開催しました。

当日は会員8名が参加し、郷土樹種であるミズナラ・ヤチダモ・カツラ・キハダを120本植栽するとともに、野生生物から植栽木を保護するため、保護管で被覆しました。

センターから現地までの移動中、所長から保護管の効果として、エゾシカ等の野生生物による食害を防いでいるとの説明がありました。

現地到着後は、2人1組で、分担しながら、作業している様子が見られました。無事、予定していた苗木を植え終わることができました。

昼食後、保護管の組立てと植栽した広葉樹への被覆を行いました。

会員の方からは、「今年も植栽できて良かった。」「保護管の効果があるのですね。」等の声がありました。

秋晴れの気持ち良い天気の中で、活動することができました。



△植樹の様子



△保護管を組立てる様子



△保護管で被覆する様子

(3) 自然観察【第3回活動】 10月22日

パイロットフォレスト（厚岸町太田）で、今年度3回目の「雷別ドングリ倶楽部」を開催し、会員10名の参加により自然観察を行いました。

釧路市から北東に約50km、厚岸湖に注ぎ込む別寒辺牛川の上・中流域に位置する国有林のうち、昭和31年から大規模造成をしてきた10,778haの森林を「パイロットフォレスト」と呼び、根釧西部森林管理署が管理経営しています。

まず、パイロットフォレストを見渡すことのできる高さ24mの望楼に上りました。天気も良く、カラマツが色づき始めており、秋の景色を楽しんでもらえました。

その後、パイロットフォレストの林道を散策しました。職員から林小班や収穫調査、施業方法についての説明、カラマツやトドマツ等の樹木を観察して、散策を楽しみました。

午後からは、パイロットフォレスト造成の歴史をまとめたDVDの視聴と機械標本展示庫の見学等を行いました。大規模な森林造成の過程に感銘を受けている様子でした。また、造成に使われた機械や当時の写真を興味深く見ている様子が印象的でした。

参加者の方々からは、「パイロットフォレストのことが勉強になった。」や「きれいな紅葉のタイミングは難しい。」等の声がありました。

今回は、標茶・真竜森林事務所からも応援いただき、詳しく紹介していただきました。雷別国有林とはまた違った森林を楽しむことができたと思います。

(4) 次年度の計画を検討【第4回活動】 2月4日

根釧西部森林管理署会議室で、今年度4回目の「雷別ドングリ倶楽部」を開催しました。

今年度の活動を振り返り、次年度の計画を検討するために行ったもので、3名の参加がありました。

先ず始めに、当センター職員と会員の方々の自己紹介を行い、その後、令和7年度の活動の振り返りを行うとともに、令和8年度の活動計画（案）を説明しました。また、来年度の自然観察箇所は、「和琴半島」に決まりました。

会員の方々と、植栽本数や今後のドングリ倶楽部について、意見交換を行いました。これらを通じて、「雷別ドングリ倶楽部」の活動をより良くしていきたいと考えています。



△望楼の展望室での様子



△散策の様子



△機械標本展示庫の見学の様子



△第4回雷別ドングリ倶楽部の様子

2 一般公募植樹「雷別へ植樹に行こう Yo!」 9月27日

令和7年9月27日、「雷別へ植樹に行こう Yo!」を開催しました。

当センターでは、森林再生に取り組んでおり、今回は一般募集の植樹イベントを開催しました。

当日は、午前中にミズナラ・ヤチダモ・キハダの植樹と野生生物から植栽木を保護するため、保護管の組立て・被覆、午後から雷別国有林の散策を行いました。

笹の根が張り、耕すのが大変なところもありましたが、丁寧に、約30本の広葉樹を植栽しました。

次に、保護管の組立てと被覆を行いました。植栽した苗木への被覆が完了し、午前の活動を終わりました。

午後から、過去に植栽した箇所や、実際に立枯れしているトドマツを見学しながら、散策しました。

保護管を外す時期を検討するために、昨年度保護管を撤去した箇所も見学しました。約1年間で野生生物等の被害をかなり受けている様子があり、保護管で被覆する意味を伝えることができました。

参加者の方からは、「1本1本の成長度合いが様々で個性豊かですね。」や「保護管の組立てが楽しかった。」といった感想がありました。



△初めのごあいさつの様子



△立枯れしたトドマツを観察する様子

3 釧路湿原自然再生協議会

(1) 第2回生態系再生小委員会 9月29日

第2回生態系小委員会が開催されました。今年度は、それぞれの事業地の現地視察、その後、釧路町公民館でオンラインを併用した会議を行いました。

今回は、ヌマオロ地区(旧川復元箇所)、雷別地区(森林再生箇所)、達古武湖(湿原再生箇所)の現地視察を行いました。

当センターからは、雷別地区において、昨年度保護管を撤去した箇所の現況を報告しました。また、保護管撤去の適切な時期の検討について議論しました。

その後の会議では、現在進められている釧路湿原自然再生全体構想見直しについての意見交換、現地視察を行わなかった事業に関する報告と意見交換が行われました。



△雷別地区現地視察の様子

(2) 第1回全体構想見直しに向けたワーキンググループ 11月27日

2005年3月に策定した「釧路湿原自然再生全体構想」は、協議会における取組の基本的な考え方やルールを示したものであり、10年ごとに施策及び評価方法を点検し、見直すこととしています。今年度20年目を迎えるにあたり、全体構想見直しに向けたワーキンググループを設置し、検討を始めました。

第1回では、協議会委員に対して行ったアンケート結果を踏まえて、全体構想の章ごとや構成などの議論が行われました。また、事務局では、事業ごとにこの10年間での成果や課題、今後の方針等について整理しています。

2026年度での新たな全体構想の完成に向けて進められているところです。

(3) 第2回全体構想見直しに向けたワーキンググループ 2月13日

第2回では、事務局から、この10年間の流域の変化についての収集状況、事業ごとの取組の実施状況と成果について整理したものを報告しました。また、全体構想の見直し内容と見直し骨子案についても報告し、検討しました。

新たな「釧路湿原自然再生全体構想」については、検討を進めて、ワーキンググループ、各小委員会等を経て、2026年度の自然再生協議会にて承認をいただく予定です。

(4) 第32回釧路湿原自然再生協議会 3月4日

第32回釧路湿原自然再生協議会が、釧路市生涯学習センター（まなぼつと幣舞）とWeb配信で開催されました。

当日は、第12期後期の協議会構成員の公募結果や収支報告を行い、さらに、前回の協議会から進められている「釧路湿原自然再生全体構想」の見直しについて、検討状況、見直し骨子案を提示し、委員から意見をいただきました。

次に、生態系評価WG及び各小委員会から第31回釧路湿原自然再生協議会以降の事業報告を行いました。

今回の協議会では、初めての取組として、パワーポイントで作成した各事業の報告内容を委員にYouTubeで事前配信しました。当日は、報告をコンパクトにまとめて、討議の時間をしっかりと確保することができ、有意義なものになりました。当センターの雷別地区自然再生事業の実施状況についても、事前配信により、今年度の植栽状況、昨年度保護管を撤去した箇所の実況等を報告しました。

「釧路湿原自然再生全体構想」の見直しや各小委員会からの報告を通して、釧路湿原再生の現状を確認できる機会になったと思います。

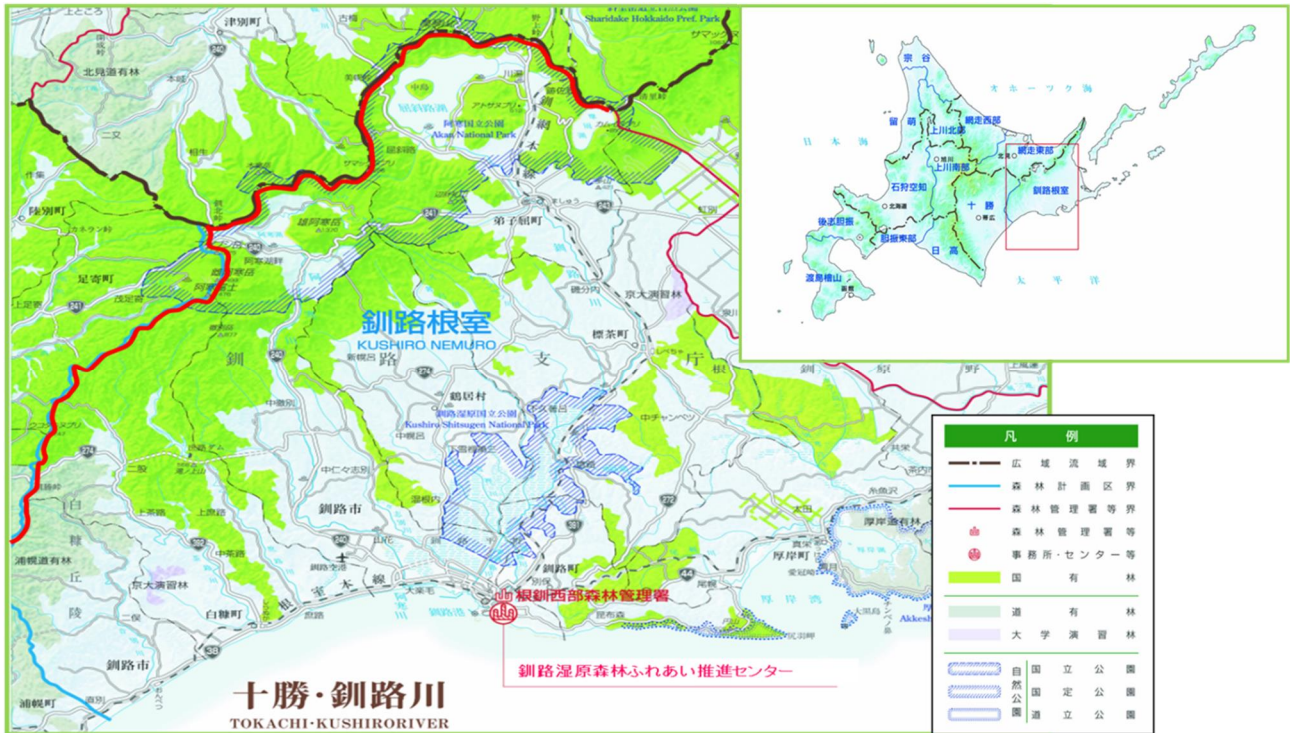


△協議会開催の様子



△司会を務める様子

当センターは、根釧西部森林管理署が管理経営する国有林（釧路市・釧路町・厚岸町・浜中町・標茶町・弟子屈町・鶴居村・白糠町）が主な活動区域です。



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/index.html>

釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11号

【TEL】0154-44-0533 【E-mail】h_kushiro_f@maff.go.jp

https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html

